

「人は何故書くのか」。このテーマに関して、私は『琅』22号にその思いの丈を綴りました。一九九二年、『琅』を創刊して爾来二十数年、私はひたすらこれに拠って、「書くこと」の目的」を十分に達しました。しかしこれは、長い間あたたく私と『琅』を見守り、常変わらず励ましの言葉で支えてくださった、たくさんの友人、知人そして私の大学時代の教え子の皆さんあればこそ賜たまです。同人誌は、もちろん、編集・発行人のためにもあるものではありません。ある意味、公的な存在です。ですが、ここまで『琅』を支え、私に心の安寧を取り戻させてくれた方々には、いつか誌上で「私的な」御礼を申し述べたいと思っていました。また、『琅』をお読み下さったたくさんの方々が、『琅』への手紙の内容に、「大変参考になった」、「感銘を受けた」などと、それがいかなる人物によって書かれたものか、と大変強

い関心を寄せてきます。

この『琅』も次号でちょうど切りよく30号。もろもろの事情で、創刊以来の若き盟友、松村茂治氏に今後の編集作業をお任せすることになりました。この機に、長年私と『琅』に並々ならぬご厚意・ご好情を賜ってきた方々に深甚の謝意を申し上げるとともに、『琅』への手紙』を手がかりに、方々を読者の皆様にご紹介させて頂こうと存じます。

なお、『琅』への手紙』の書状は、私への私的な通信文でもありますが、公開するにはどこか差し障りのある部分も生じて来るかもしれません。この度は皆様のご了解も得ております。どうかご海容下さい。

終わりに、今回の『琅』への手紙』はすべて、松村茂治先生にパソコン入力してもらいました。御礼申し上げます。

『琅』編集人 宗内 敦

『琅』二十八号への手紙

拝復

『琅』28号、ありがたく拝受しました。いつも力作がありますね。大兄の「敗者（から）の裁き」、まったく同感です。大國主義、資本主義、グローバリズムがイスラム国に限らず、多くの怒れる敗者を生み出しました。根因は人間の性。いつの間にか、人間はゴウマンになってしまいました。急に暑くなってきました。お互いも少し生きましよう。 不

4・28 吉村久夫

経済人。佐賀県立小城高校の同窓生でピカ一の俊才。まっすぐ早稲田の政経を目指し、まっすぐ日本経済新聞社に入り、転じて日経BP社では社長・会長など要職を歴任。『琅』についてはどれほど多忙でも、いつもあたたかく、また常に高所からの真芯をつまコメントをもらい、考えを深める糸口を与えられている。多忙の中での長い間の交友、ひたすら感謝するばかりである。

このたび『琅』28号を送付いただき誠にありがとうございました。パソコンがまだ使えなくて返信が手書きになってしまってますみません。前回はお手数をわずらわさせてパソコン入力をしていただき、『琅』への手紙へのページに載せていただき、いろいろとご面倒をおかけいたしました。

今回もはじめから最後のページまで一気に読ませてもらいました。同人の皆さまの健筆を羨ましく思いながら楽しく読みました。年齢を重ねても、書くという事は若返りの一手法かな、と思います。皆様の若々しい筆の運び方に感心しています。

同人の皆様には教育関係の方が多くに思われます。宗内さんの持論「教師の四つの権威」は、以前から感心して私の頭に入っていたことですが、今の時代には、より必要なことだと痛感します。孫たちの学校の先生、昔採用の仕事でおつき合いました先生、皆立派な先生たちでしたが、四つの権威を満たすことは容易ではなさそうです。

教師の理想の姿として各教師が目指す目標となつてもらいたいとの気持ちも充分受け取りました。

また、松村氏の谷崎潤一郎記念館の文学館散歩の記事は興味深く読ませていただきました。小説好きなきな者は、このような文学散歩記事には興味をそそられます。

また、つめなが氏の童話は面白いですね。前回の童話同様、孫に読んでやりたい物語です。絵本にして売れるのではないですか。『琅』にこのようなページがあるのも面白く感じます。

とり急ぎ、思いつくままの筆で失礼いたします。

5・20 川合道朗

東京教育大学教育学部心理学科の同級生。三洋電機(現、パナソニック)の人事部、とりわけ採用人事の経験が長く、人間への関心・洞察がひととき深い。『琅』についても、毎号、多様な作品群をすべて目を通し、心温まるコメントで激励してくれている。友人とはかくあるべきか、としみじみ感じ入らせてもらうと同時に、都度己を反省するよすがを与えられている。

私もひとり暮らしになって八年目、今年も先月二十九日、日本万歩クラブ主催の山ノ手線一周三十五キロを六時間三十分かけて完歩しました。八十七歳になります。鼻づただけは強く、電車に乗っても吊り皮につかまり、席をゆずられたり? せぬよう精一杯背筋を伸ばしています。『琅』もあと二号とのこと、最後まで無事におつとめになれるよう祈っています。お礼まで。

4・30 白井 昭

大学卒業後11年務めた家庭裁判所調査官時代の先輩。往時、同職の妻と婚約した喜びを明かした当日、たまたまの庁内宴会で飲み過ぎ、トイレで床一面に嘔吐した。その時、その後始末を何も言わずにさっさとやってくれた

のが白井先輩である。上層部からの激しいじめを受けた裁判所時代を耐えることができたのも、じつと見守っていてくれる先輩がいるという実感のおかげ。後に大学教師となつて「ケースワークと権威」を出版した時には、まとめ買いで応援して頂いた。私の人生を支えてくれた大切な恩人の一人である。

『琅』28号お送り下さり誠にありがとうございました。早速読ませていただきました。ようやく陽気も良くなつてまいりましたが、益々のご自愛のほどを祈つています。

4・30 菊池 明

家庭裁判所時代の先輩調査官。但し私と同年代。まっすぐ前を向き、力に屈せず、正義を愛する人。定年後に著した『非行者裁判』（日本図書刊行会）に、その信念がうかがえる。また、私の著『歌は心の乗り船』172頁に登場するA・Kさんの件が、私との関わりの中でのエピソードであるが、私はそこで、感謝の気持ちと共に、人間のあるべき姿を描いたつもりである。

拝復

春とは云え真夏のような気候の続く毎日ですが、お元気で過ごしのようで何より

と存じます。この度は『琅』28号お送りいただき、ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。私も加齢で読速は落ちましたが、まだ認知力がありますので、折り返しながら拝読致します。まずは御礼まで。お身体をくれぐれもお大切に。草々

4・29 田中武平

東京教育大学の前身東京文理科大学卒業の大先輩。元女子栄養大学教授。私が家庭裁判所から都留文科大に転じて図書文化内・応用教育研究所の依頼の下にCPTの本邦初の標準化作業に携わっていた時の研究部長。調査・研究が長引いて研究費ばかりかさばると社内から強い不満が上がる中、データの改竄などして研究をでっち上げる研究者もなくなっている中で、どこまでもデータから真実を学ぼうとしている。立派だ。長引いて当然だ」と私を弁護されたと聞こえてきた。おかげでそれなり納得の成果を上げ、今日まで、私はCPT研究者として斯界に存在し得ている。これまで、『琅』について世辞など一切無い。私の大切な恩人の一人である。

前略

過日は『琅』28号をご恵送頂きまして有難うございました。先生の教師論は、自分

5・15 大久保廣行

万葉集研究の権威。元東洋大学教授、都留

もあり、先生の「ファン」としても、心配しております。時間が経つなかで、先生に時間的なゆとりがつかれるなら、それも良しではないかと（大変失礼な言い方ですが）思うようになりました。

『琅』の編集・発刊の諸業務は、大変なお時間が必要であらうと推察いたします。もし、これらの業務から解放されるなら、先生には文筆業・作家としてお仕事をされることに期待を致したいと思えます。先生の感覚鋭い、時に「毒」を含ませた評論をより一層味わせていただきたいものです。

秋になり、果物のおいしい時期を迎えております。先生の家庭果樹園に豊富な果樹野菜がありますことも存じておりますが、山梨のブドウもご賞味いただければと思います。『琅』29号発刊作業がお忙しいと思いますが、ちよつとお手を休めていただければ幸いです。

9・13 保坂三男

元山梨県中央児童相談所長、臨床心理士。家裁から都留文科大に転じて以来の長い交友。虐待を受けていたオウム真理教の子どもたち（53人）を救出し、その後の社会復帰支

大変ご無沙汰しております。お元氣のことと拝察申し上げます。『琅』をいつもお送りいただき、ありがとうございます。遅くなつてしまい、誠に申しわけございません。

あと二号の発刊をもって松村先生にパトタッチされるということをお聞きしましたが、本当に驚きました。大学教授に、文筆家であり、かつコンピュータの専門家でもあり、広範に亘つて大活躍されてこられました。先生の多方面に及ぶ才能と、あれもこれも立派に成し遂げられてしまわれるエネルギーに、「超人」とさえ思つておりました。ただ最近はお病気で臥されること

に教員の経験があるだけに切実に感じられます。教師として真の「権威」を自覚して生徒に接するにはどうすればよいか各自が深く考えねばなりません。少子化が問題になっている現代なればこそ、教師の創意と工夫によって個性的で独自の教育が実現できる絶好の機会だというのに、国はやれ教員免許は国家試験の合格者でなければ交付しないと、そのうち四万人も減員するとか、横暴きわまりないことを表明しています。一体教育を何と考えているのでしょうか。国の方針に右へならえした教員を養成して生徒をすべて昔の「少国民」や軍国少年に仕立てようとしているように思えてなりません。今に国を滅ぼすことになつてしまいそうぞ恐ろしい話です。

私もこのころ、医者通いが多くなつて残された時間の少ないことを痛感し、自分の中途半端な仕事に一つくらいしめくくりをつけなければと思つています。先生がお手本です。

援活動に大きな成果を上げたのが山梨県行政府。氏はその折、責任者の一人として多大な貢献をなし、後に山梨県初の心理職出身の管理職となつて、福祉・臨床機関の長を歴任した。今なお、スクールカウンセラーなど、各種心理臨床家として活躍している。

不順な天候が続きましたが、やつとこの連休はよい天気になり、ホツとしています。『琅』28号御送付頂き、有難うございました。最初の先生の所感身にしてみました。世界情勢、日本の事、何だか我々の暗い青春がよみがえつて参ります。今後どうなるか孫達の時代が心配です。

宇沢先生はすこく偉い方だったそうですね。長女の婿が東大の数学科を出て、今中央大学の教授ですが、最後に中大で教えて頂いたと申しておりました。御子息とも同じ数学者仲間と申しておりました。

一番目の姉の主人が高木醫夫と申し、やはり経済学者で、宇沢先生と同じような考えを持っていました。終戦後の大変なときに、私を音楽大に強くすすめて下さいました。「私の今日あるのは義兄のおかげ」

と思っております。

御身体を大切に、奥様よろしくお伝え
くださいませ。

5・8 廣江啓子

音楽家・ピアノリスト。都留文科大学時代に
非常勤講師としてお見えになつて居る時にこ
戀意を賜るようになり、私の教職引退・出版
記念会では「トビウツシ」の「月の光」など
曲を奏して頂いた。指導に厚く、何人もピ
アニストが、指導を受けた経歴に誇らしげに
先生の御名を挙げて居る。毎年恒例のピアノ
教室発表会は、すでに集立った教え子たちも
参加して、歌、ヴァイオリンなども加わる楽
しい音楽会。妻と共に往くたび聴くたび、『琅』
もまた、多彩な読み物を生む楽しいもの書き
集団になればなあ、と刺激されている。

この度は『琅』28号を恵贈下さり有難う
ございました。楽しみに拝読しております。
先生の「一言、三言、世迷い言」にはいつ
も感心したり、先生と一緒に憤つたりして
います。特に、今回の「コピペ」には、学
生に文章を書かせ、また自分も拙い論者な
どを著わす身としてとも考えさせられま
した。便利なツールがあると、つい人間は

悪用したくなるのでしょうか・・・どう
ぞ益々お元気で、ご健筆お祈りします。

5・16 加藤めぐみ

明星大学教授。7年間勤務し、最後の勤め
先になった明星大学での教授仲間。学生の話、
同僚・先輩の話、人の話はじっくりその裏側
まで読み取って応える、共感性豊かな英文学
者。短いおつきあいだったにも拘わらず、そ
の後も『琅』と私にあたたかいコメントを与
え続けて頂き、次も書くその動機づけの源と
もなった。人は人の眼差しの中で勇気づけら
れる。まさにその理を実感させていただいて
いる。

拝復

『琅』28号拝受。有難うございます。「敗
者からの裁き」貴殿のいつもながらの視点
に感心します。前号へのコメント、『琅』
27号への手紙」に掲載して戴き有難う。七
十歳代 八十歳代への峠をうまく越えてく
ださい。御礼まで。

5・10 日江井榮二郎

天文学（太陽物理学）者。元明星大学学長、
東京大学名誉教授。学長たる者、まずは一流
の学者であり、研究者であり、かつ人物・識
見に優れていなければならぬはずだが、現

実の世界は、資格をばらざるとも、権力を求め
徒党を組んで、その地位に就く者少なしとし
ない。私の知る中では、氏は元東京教育大学
の朝永振一郎氏と共に最も学長にふさわしい
学長であった。発する言葉、常に重みがあり、
その一言を得たいがために、失礼をも顧みず、
『琅』をお送りしてきた。退職記念・出版記
念会では、丁寧な挨拶をいただいた。

『琅』28号をお送りいただきまして誠に
ありがとうございました。

「一言、三言、世迷い言」で、「教師は
すべからず、権威を持つべし」で、かつ
て富山へ来ていただいた折、講演後の一刻
この教師の権威について熱く語られたこと
思い出しております。また、技術的に未熟
な若い人達が教師として存在し得るのもま
た、この権威について自覚しているか否か
にかかっており、新たに出版されたご著書
も広く若い教師の方に読まれることを願っ
ております。

その後ご健康のほうは如何でしょうか。
果樹園についても続けておいででしょう
か。我が家のリンゴ、ブドウも現在のところ、
順調に育っている様です。また畑の作

物も今のところ20種位にわたっており、我
ながら驚いております。物言わぬこれらの
ものとの対話も少し可能になってきたので
はと勝手に思い日々を過ごしております。
ピツピツか自愛の程。

6・10 井上亮二

校長職、教育委員会など、富山県で長く教
育界に貢献。一九八八年に刊行した『指導力
の豊かな先生』（図書文化）が早速お目にと
まつてその年富山県の教員研修会の講師に呼
んで頂き、そのとき以来、長いご高誼を賜っ
ている。社会教育家・後藤静香の詩集『権威』
を教えて頂いた際、お便りの節々で名歌・名
言を聞かせてもらったり、私をしていつしか、
その幅広くして鷹揚なる歩み方を学びたいと
思わせている。

拝啓

子どもたちは早くも夏休みを迎える時節
になりました。宗内先生には如何お過ごし
でしょうか。「副作用」の方よろしいでしょ
うか。

この度、『琅』28号を頂戴いたしました
ありがとうございます。岩手県でまた
「中学生の自殺」が起きてしまいました。

可哀想で可哀想でたまりません。「生活
記録ノート」の内容が公表されています
が、担任の対応と学校としての情報収集
体制を知りたいものです。しかし、「ノ
ート情報」の扱いには、小生も随分悩ま
しいものがありましたね。

「一言、三言、世迷い言（十五）」を拝
読しながら、「指導力のある先生」「先生
出番です」で大変感銘を受けたことを思い
出しました。現役のところ所属の初任先生に
プレゼントしました。その結果は不明です
が、『琅』20号の「教育文庫」で「学級担任教
師によるふれあい指導」の「指導力の源泉」
「教師の権威」などに、未だに新鮮さ感じ
ながら再読いたしました。また、同号は奇
しくも「いじめ」が特集されており、先生
の仕事の大変さをつくづく感じておりま
す。

傘寿の世界は如何ですか。井上亮二先生
とは時折、先生のことを話題にして懐かし
んでおります。時節がらどうかご自愛くだ
さいますこと祈念いたしております。まず
はお礼まで。本当にありがとうございます

敬具

7・11 石倉秀一

前出の井上亮二先生と同じ、富山県で長く
校長職、教育委員会などで活躍。前述の教
師研修会の折の事務方責任者。講演終了後、
私の持論の四つの教師権威について（書物に書
かれていた）には、具体的説明がなかった
と指摘された。爾後、講演や講義の前に、気
づかぬ所、足らざる点がないかとよく思
案するようになった。私のあり方を反省させ、
方向づけることになった往事の一齣、恐縮な
がら、思い出しては、『琅』をお送りしている。

拝啓

陽春の候 先生ご夫妻にはお変わりなく
ご健勝のこととお慶び申し上げます。

日曜の市議選投票後、久し振りに初沢山
に登ってきました。近くにこんなよい里山
があることに改めて高尾に住んでいてよ
かったなあと思いました。

さて、此の度は『琅』第28号をお送り下
さいまして有り難うございました。

【評壇】の「イスラム国」についてのお
説、まことに同感です。欧米の価値観・エ
ゴイズムが中東の混乱の原因であることを

反省すべきと常日頃感じております。それにしても八百万の神を尊び、神社仏閣・路傍の地蔵にもお供えを厭わない、この日本の風土は、何と平和なんだろう、日本に生まれてよかったと思わずにはいられませんが。

「一言、三言、世迷い言(十五)も、興味深く読ませて戴きました。教師はすべからず「権威」を持つべし」のご提案は「目から鱗」で、感服いたしました。不登校児に対してのカウンセリングの実例も感銘深く読みました。つい先日、川崎の多摩川河川敷での殺傷事件、それにこの数日報道されている船橋での少女生き埋め殺人事件と、おぞましい犯罪が続きます。親や教師のみならず世の中の大人どもの、子供に対する接し方が何か間違っている、狂っていると思わざるを得ません。

宗内先生のような教育臨床の専門家が声を大にして世直しをして戴きたいと思うことときりです(寄る年波には勝てないなどと仰らずに)。

とり急ぎ『琅』の御礼まで。

次第です。

地方選挙が終わりました。甲府は県議選、市議選とも投票率が50%を割りました。心配というよりも、危機を感じてなりません。この無関心は何に由来するのか論じるつもりはありませんが、私は、現在の政情からして、我が国がふたたび過去と同じ道をたどりそうな危惧を覚えてなりません。こうした風潮が、イスラムSのような突拍子もない過激派などに付け入る隙を与えるのではないのでしょうか。飛躍し過ぎであればよろしいですが、『イスラム国』の暴挙は『敗者(から)の裁き』を読み、焦燥に駆られました。

「一言、三言、世迷い言(十五)」のお説、ご著書により深く肝に銘じておるところであります。私には現職のころ、「権威」と「権力」を正しく理解し、生徒たちに接していたか否か、反省させられるところが多々あります。

殴ったヤツは忘れても、殴られた側は決して忘れないもの。かつて、私の心ない言動により、生徒を疵つけたにちがいありません。

整形外科・漢方医。元東京大学整形外科教室医局長、財団法人日本漢方医学研究所附属日中友好会館クリニック所長など。先に住んでいたマンションでの隣人同士。礼節のもと、心優しく、お医者様はみなこうあれかし、とつくづく思われる方。御著『よくわかる腰痛の原因と治し方』(ナツメ社 2003年)を読んで、人の心に向けられる大いなるいたわりにも共感し、先生が総合治療学としての漢方医としても高座に位していること宜なるかなと感じ入って、『琅』送付の非礼を重ねている。

台風の影響で、連日の大雨に気持ちもブルーになっていたところに日光鬼怒川の堤防が決壊、大きな被害が出たというニュース。一瞬にして濁流が家を飲みこんでいく映像は、東日本大震災を思い出させるようで、胸が痛みます。

さて、いつも貴重な御本『琅』をお送りいただき、ありがとうございます。5月頃は新学期が始まってバタバタしている時期で、電車の中で少しずつ読みながら、クスツと笑ってみたり、なるほどどうなづいてみたり…楽しませていただきました。

宗内先生もまだまだご活躍で、本を読むたびに私も励まされています。ご本のお礼に、今年も梨を送りました。感謝の気持ちだけではなく、お礼の遅れへの謝罪や宗内先生への応援エールなどの気持ちもこめて、夏の疲れが出る頃です。くれぐれもお体を大切になさってくださいね。

9・10 鈴木明美

帝京平成大学教授(臨床心理学)、臨床心理士。交わりのきつかけは、氏が大学院1年生時、当時私と親交厚かった東京学芸大学の福島倫美教授の研究室、やがて『琅』に次々綴ったつづねなる思い出話に、「宗内節」、「宗内ワールド」なる嬉しい評を最初に与えてくれたのが、氏であった。そしていつしか御地(房総半島東部)の名産・豊水梨をいただくようになったが、都度に私は、掌中の梨とともに消え去った遙かむかしの初恋の日を昨日のように思い出し、甘く切ない未熟な宗内ワールドをしみじみ行きつ戻りつさせられるのである。(『歌は心の帰る船』第3章「初恋」)

五月一日、二十九度六分、二日、三十度五分を記録しました。春らしさを感じる間もなく、初夏をすっ飛ばし、一挙に夏です。さすがに朝夕はさすがしく、ホツとする

せん。恨むとか恨まれてるとかいう感情を抜きにして、至らぬ教師であつたと痛感しております。

担当した卒業クラスは三つきりでしたが、妻が健在当時、結婚の媒酌人を務めたこと、主賓の座に着いたこと、披露宴へ招待された数は両手の指を何度も折らねばならぬくらいですし、クラス会へも度々招かれます。自分で言つのも淋がましいですが、それなりに認められ、決して嫌われたりバカにされてた教師ではなかったと、自負しております。

しかしながら最近、私は、教師という職業に就いたのが正しかったのか、と疑念を抱くようになりました。一体、どのような理念、哲学、ビジョンがあつて「教師」を選択したのだろうか。単なる憧れ、あるいは趣味の延長に過ぎなかったのではないのか。

私は教職に在って、職場、同僚、生徒らから多くを学び、多くの貴重なものを得ました。なのに、私が生徒たちに何を与えたのか、かれらは私から何を得たのか、と考

えますに、極めて曖昧であつて、これだ、と言い切れるものがないのです。私はいま、卒業した生徒たちに申し訳ない気持ちでいっぱいです。この気持ちを自分の胸に重ねておいたのではいけないと、現在、同人誌「筈」へ連載中の小説が来年には完結しますので、次の作品へ、何らかの形で表明したい、と思っております。「生きていくならば・・・」です。

私も体調万全とは言い難く、四年前には危うく命を落とすところ、七十日入院しました。昨年二月には腎臓ガンを手術し、もう一つの腎臓も慢性腎臓炎を病んでおります。日常には不自由はないものの、随分体力が落ちました。それでも生きている限りは「書くこと」に精進し、「筈」を保持してまいります。

「健康、くれぐれもお気をつけてください。『琅』28号、有り難うございました。

5・7 依田 茂夫

伝統ある甲州同人誌『筈』の発行人。先年亡くなった牧宏氏の後を継いで山梨県文学界

を支えている。09年、作品と御名を知るのみだった氏から依頼を受けて山梨県文化講習会で講じた。人は何故書くのか「私の場合」は、私をして書くことの原点を顧み、人間性の本質に目を向けさせる掛け替えのない機会となった。病魔と闘い続けながらなお自己、文学、社会に向ける冷徹なあり方は、到底まねる事などできない人生先輩の真姿である。

不安定ながら、新緑の季節に入りました。早々に、『琅』28号頂きながら、一つは他事に追われ、一つは問題が大きく迷いに迷い、八ガキで出せることできず、又じっくり長文にして書ける頭もなし、というわけで、結論も出せないまま、あいさつだけでもというわけです。

・あと二号まだやる気あり、後継者あり、大慶です。「銚」は何ととなりますか…。
・イスラム国、遠因は、アメリカのイラク出しやばり戦争ですか。

・日本の(心の)崩壊は、小泉政権からか。日本の成長、終身****でした。****

宇沢先生のこと、不勉強で、追悼文は山

拝啓

薫風に鯉の泳ぐ候

『琅』28号を拝受いたしました。ありがとうございます。ご返信は、教師の権威と指導力は初任者二名に就職祝いとして贈りました。実践への道はきびしいようで、のたうちまわりながら学級づくりをしています。先生にはご返信も自愛なされますよう。

敬具

5・3 赤松 理

83年3月、都留文科大学卒業。川崎市立大島小学校校長。学生時代は「CPT」研究に関わり、その研究結果(卒論)「色彩ピラミッドテストの妥当性の研究 構造形式による創造性尺度の検討」は私のCPT研究を大いに発展させる礎ともなった(共同研究者・井口光児)。思考は常に情性豊かに理性的で校長となった今、教職の専門性を高めるべく、新任者に教育科学的な専門書を与え読ませるなど、やさしく厳しい指導者である。

浦野裕司氏の『体罰考』を拝読し、これが事実なら、当の担任の学年の教師や同僚教師は気づかなかつたのだらうかと疑問に思いました。気づいても見て見ぬふりなら

日紙上で拝読しましたが、目からウロコの感。すべての学問の帰する点を、忘れてはならない。 (傍点部 判読困難) 教師のあり方も共感。益々のご健筆を！ (ご判読を乞ふ) 不 一

5・13 古明地義勇

筆名、日野四郎。編集人として、依田茂夫氏と共に『銚』を支える。お二方とも教職にあったが、依田茂夫氏とは対照的に、まさに磊落、体調不良の中でどれほど書字が困難でも、必ずお返事を下さる。今回は判読不能の箇所がやや多かったが、寄せられるご好意と暖かさは、いつも文中にあふれている。氏の描く小説の主人公は、型にはまらぬ個性的な思考と行動の持ち主が多いが、常に抱きしめたいほどの愛情で包み込まれている。『琅』への返事』を待ち焦がれる所以である。

『琅』28号、有難く拝受致しました。

先生のお言葉通り「おひまな時にでもお目通し…」に相当甘えさせて頂き御礼が今日に至りました(泣)

卒業して35年が経ちます。「宗内ゼミでした！」と胸を張って言えるような学生) 今日に至っています(ではありませんが、

学校そのものが腐っているのではないかと。本校でこんなことが起こると、すぐにつぶれてしまいます。

教師失格であるばかりか、一人の人間として恥ずかしい人物でしょう。まだ、どこかで教壇に立っているとしたら、大いに問題でしょうね。本人の経験を基に文章化されているのでしようが、目を疑いたくなるような内容で、驚いてしまいました。

山本文子氏の『よもやま話(二)』にも、にわかに信じがたい現象だなと感想を持ちました。バックナンバーで(一)を読んでみます。

短い感想をお伝えします。ピントはずれだったらご指摘ください。

4・29

井口 光児

83年3月、都留文科大学卒業。兵庫県宝塚市雲雀丘の私立雲雀丘学園小学校教頭。赤松理氏とは親友、卒論も共同研究だった。よく3人で飲食したが、どれほど打ち解けてもきちんと節度が保たれ、楽しく安らかな教師冥利に尽きる時間をもらい続けた。最近の便りに、「担任教師として子ども達と毎日過ごすことが一番の喜び、降格してもそうなりたい」とあった。この師を通して、学園の子どもた

お心に留めて頂き感謝の思いで一杯です。先生のミロロを楽しみに時々訪問させていただきます。相手をパッサパッサと批評していく表現力に【宗内ワールド】健在だなあと、ニヤツしながら拝読させていただきます。

最近のいじめ問題には大きな衝撃をうけます。保護観察指導にも限界を感じる事があります。

暑さ厳しき折、先生におかれましては、いつまでも御健康で益々の御活躍をお祈り申し上げます。

7・12

細川千恵美

81年3月、都留文科大学卒業。東京家庭裁判所から教員養成大学として知られる都留文科大学に移った当初のゼミ学生。教師として未熟だった私をいつまでも師として立て、毎年の賀状、また『琅』創刊後の『琅』への返事も欠かさず頂戴している。よき業績を残して恥ずかしからざる「師」となって応えなければ、と奮い立たせてくれる教え子たちは、いわば人生の恩人。その最長老が柏原こと細川千恵美さんである。最後に会ったのは、卒業直後のことだったが、互いに急ぎ足の、東京発下りの新幹線車中での際会だった。その折の心残り、今なお、胸に宿っている。

ちがきつと礼節を知る豊かな人格者として育って行く。思うだけに楽しい念いである。

初夏の爽やかな陽差しが、日々盛んになる緑を美しく照らし出しています。お元気ですか。先だっては、早々に『琅』をありがとうございました。

私はこの四月の人事異動で甲賀市の最大規模の学校に移り、この一ヶ月はあわたたしさの中で、ただ時間だけが流れていっている感じでした。企画力、創造力、行動力をどう大規模にマネジメントするかが最大の課題です。また何かご指導ください。草々楽しい時間旅行を満喫してください。

5・20

片岡義博

84年3月、都留文科大学卒業。滋賀県甲賀市立貴生川小学校教頭。『琅』への返事は毎回頂くが、『琅』の内容には触れなくても、目下の教育活動については必ず熱く語る。学生時代、同期の男子学生がこぞって教師・教育について語る中、いつも一歩退いた所から発言、周囲から異端視されることも無きにしも非ずだった。しかし、教職に就いてからは何の何の、教育への献身が最も強い教師になった。面だけでは掴み得ない人間の思念や資質、それ

を痛いほど分らせてもらった人物である。
薫風の候、先生におかれましては、お健やかにお過ごしのこと、何よりとお喜び申し上げます。

いつも、『琅』を丁寧にお送りくださいます。まことにありがとうございます。公私ともにお忙しいなか、いつもながらお手数をおかけしまして恐縮に存じます。

27号の「過ぎたるは及ばざるが如し、何事もほどほどがよし」は、何度も読み返しました。教育者側の一方的な指導は、子どもの自主性を育てられず、子どもも自分も疲弊してしまつくと、反省させられました。

また、28号の「イスラム国」の暴虐は、敗者（から）の裁き」で、宇沢弘文氏の「経済学の原点は人間、人間でいちばん大事なのは、実は心なんだね」の言葉を引かれ、「これは、あらゆる学問、科学そしてあらゆる人間活動に通底する天理ではないか」は、全くその通りだと思えました。目から鱗が落ちる思いがしました。心を大切にすることこそ大事と、改めて心に記しました。

いつもお心にかけてくださり、お送り頂ながら、何のお応え、お返しもできません、申し訳なく思っております。
あと二号のこと、総仕上げのご執筆の日々をお過ごしのことと推察申し上げます。どうぞ時節柄、くれぐれもご自愛くださいますようお願い申し上げます。かしこ

5・23 佐野智子

85年3月、都留文科大卒業。教師、大阪府大東市在住。私の恩人の一人である。私には、業績としてユニークな統計解析ソフト「自在」があるが、それが完成するまで、実験的によくゼミの学生に試用してもらった。皆が賞賛する中で、ひとりソフトの未熟を指摘してくれたのが佐野さんだった。おかげで改良の諸点が明確になり、発売後たちまち評判のソフトになった。『琅』についても全く同じ、そのまっすぐな評価とまっすぐなコメントは、求めて得がたく、ひたすらの感謝である。

前略失礼いたします。先日は『琅』28号をお送り戴きまして、ありがとうございませす。あと2号で先生の編集が終わる由、残念な思いです。しかし、先生のご健筆はまだまだ続きますね。楽しみにしています。

今まで23年間の『琅』の編集と数多くの機知とユーモアとウィット（時には痛烈な皮肉）に富んだ論考、エッセイ、俳句など、先生の多彩な才能にただただ感服するだけです。今後も「老体」鞭打つてやれるところまで、お励み下さい。いつものご厚誼に心から感謝申し上げます。別便にて粗酒を送りますので、ご賞味下さい。

5・14 那須光章

元滋賀県立大学教授(教育心理学)、びわこ学院大学教授(現)、真宗・大谷派「教照寺」住職。先生が滋賀大学助教授の折、「自在」が研究室に置かれ、使用した先生のゼミ生から頻りに電話質問がくるようになった。やがて先生ご自身が研究調査で各地を巡る途上、都留文科大に立ち寄せられた。その夕べ、ちょうど非常勤講師として来合わせていた松村茂治氏と3人の楽しいひととき、先生は一滴のお酒も召し上がらなかつたが、まさに前掲「自在」が取り持つ有難い縁、以来、長いご厚誼、折に触れての滋賀の銘酒、身の縮む思いである。

雨にぬれた緑が美しく映える季節となりました。『琅』28号をおくつて下さり、ありがとうございました。新一年生を担任し

4・30 末松義則

元聖教新聞記者。都留文科大在籍時に何かの折に取材に来られて知り合い、その後20年を越えての交わりになる。退職・出版記念会にもご出席いただいた。何事にも真摯に向き合い、とりわけ教育・社会問題について関心が深く、『琅』へのコメントはもとより、私のためたまの新聞・テレビでの発言・論考を見つけても感想を寄せ、大いに力づけてくれる。

こんばんは。月日の経つのは早いものです。

「一言、二言、三言、世迷い言」の川崎の事件、何故?という疑問が消えません。でも、小学生の子どもの持つとみると、先生方の多忙さ、ストレスの多い環境に、こちらが心配になる程です。保護者の目は大変厳しく、教師に容赦ありません。家庭ですべき教育は棚に上げて、教師の資質はもちろんのこと、プライベートまで詮索する有り様です。先生方の保護者に対する気の遣いようといったら、可哀想になるくらいです。「先生」に対する親の敬意は、今の時代、微塵もありません。在るのは、批判、出来て当

6・6 佐々岡淳志
和恵

てからずっと多忙が続く、お礼を申し上げます。年々、体力勝負のこの仕事が辛いです。先週に運動会も終わり、少しひと息つきました。ゆっくり読ませて頂きます。心ばかりの品を送らせていただきました。どうぞご笑味下さいませ。これからの益々の活躍をお祈り申し上げます。

一九七七年8月、妻と娘と3人でアラスカを旅し、外景が吹き抜けて見える洒落た丘のレストランで夕食を摂っているとき、ウェイターが突然、ビールが並々の大きなピッチャーを持ってきた。戸惑う私たちにニコニコ笑って彼が指さす彼方を眺ると、これまたニコニコと微笑む若いお二人が会釈されていた。こうして異国の旅先で知り合った佐々岡「夫妻」はや20年に近い交わり、ご迷惑を顧みず、ここにも無事の便りとはかりに『琅』をお送りする。そして、心苦しくも、このお便りがあるように、何かお品を頂戴することにもなる。罪深いことと十分弁えつつも、『琅』は私の分身、人生を豊かにして支えてくれる人、生きていく証をお知らせしたい方々には、どうしてもお送りしてしまうのである。奈良市在住。

拝復
貴重な『琅』28号をご惠贈賜り、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。
巻頭の「評壇」、宗内先生の「『イスラム国』の暴虐は敗者（から）の裁き」、本当にいろいろと考えさせられました。「私たちが日頃依拠する学問・科学と自ら行う行動のすべてが『人の心』を平然と傷つけてたくさんの『敗者』を生み出し、いつか平和と安寧に仇なす人々を作りだすことにくみしてはいなかったのか」宗内先生がおっしゃるように、真摯に内省するところから始めなければ、本質的な解決はもたらされないのだと私も痛切に感じています。「彼らにも本来、素晴らしい生命が秘められており、それを輝かせて人間らしく生きていく権利がある」との人間観に立つて、平和と共生に向けての対話が粘り強く続けられていくような道がどうすれば開かれるのか。今こそ、人間の叡智を結集すべき時だと思われてなりません。敬具

たり前、だけです。

教師の資質あつてこそ、ですが、教師のみでは現場は成り立ちません。まずは保護者がちきんと家庭での教育をすべきではないでしょうか？ ぜひとも、教師、保護者、地域の連携あつてこそその教育、という視点からの問題提起を、先生の鋭い斬り方で、世の中に問うていただきたいと思います。

生意気言つて、すみません(´▽`) こちら27号に載せていただいた幸せそうな状態から転落して、苦悩しておりますが、私も頑張ります。

ますますの筆力、楽しみにしております。

5・2 金子祐子

92年4月、都留文科大入学。当時、なんたることか、学長等の誹謗・妄言によって、「著書を買わない学生を不合格にした破廉恥教師」として私の名前は学内に鳴り響いていた。そうした噂話に惑わされず、私のゼミの門をたいて、96年3月、卒業。文才があり、卒業間際に書いた処女作『猫の日記』(『琅』8号)はたちまち人の目を引き、図書新聞「同人雑誌評」では「本が読める猫 才筆を楽しむ」と評者の白川正芳氏によって大きく取り上げられた。結婚後、筆を断つたままであるが、私にとっては今でも目の中に入れても痛くは

ない存在、因みに。歌は心の帰る船」208頁から登場してくるY・K嬢がそれである。

『琅』28号を有難く拝受いたしました。

じっくり時間をかけて拝読するものですから、いつものことながら御礼申し上げます。川崎市の事件は本当に残酷で、宗内先生はどのようにご覧になったのだらうと思っております。川崎市をはじめとする教育委員会、文科省の取り組みを「正道である」と評価されながらも、「同種事件の再発を防止していくようには思われない」との鋭い指摘。こちらの教育委員会でも「調査の結果、該当する可能性のある生徒が名存在することを確認」ということが得意気に!?発表されました。「ではその先的具体の方策は？」と疑問を抱いているところでしたので、溜飲が下がる思いがいたしました。

そんなときまたしても、先生が懸念を抱かれていたように、同様の痛ましい事件が愛知県で起こってしまいました。事件の背

の卒論テーマ「大学生の充実感に関する一考察」をもって日本教育心理学会の学会発表にも赴いた。思い残すこともなくなり、私は翌年、明星大学に移ったが、その年赤羽さんが急逝した。数年後、彼女のご母様から、私のホームページ掲示板に、メールのウィルス感染は治ったか『琅』13号の在庫があれば送ってほしいとの便りがあつた。その折り私が掲示板へお送りした返信は次のようなものであつた。

赤羽真由美様

お嬢様が急逝されてから、もう5年経つたのですね。出講日、私が研究室に入ると大体いつも、東野さんと二人、必ずどちらかはいて、もうお茶やコーヒーがいつでも出せるようになっていのです。よくぞ教師になりました。何の壁もこだわりもなく、ただひたすらに楽しかった師弟の仲、大学の日々、私にとつてもかけがえのないものでした。私の臨床観と技術をそのまま受け継ぎ発展してくれるものと、密かに、いいえ、かなりあからさまに期待していました。カラー・ピラミッド・テストの器具一式を卒業時にプレゼントしたのもそのためでした。明るくおおらかに、よく学びよく遊びを実践する見事な若者、どのような時代でも最高位に評価される人物でした。私はかけがえのない二人の思い出と共に都留文大を去ることになり、お陰で、その他諸々不快な出来事は全て目を瞑って放り出すことが出来ました。思い出しては、赤羽美

6・10 蓬田澄子

97年3月卒業。都留文科大における、退職前年のゼミ学生。親友の赤羽美恵子さんとともに、生きる支えになった最後の学生恩人である。二人は私のCPT研究をよく手伝い、蓬田(旧姓、東野)さんとは、97年9月、彼女

景の詳細はわかりませんが、大人が救えたであろう命であつたことが残念でなりません。

【『琅』・あとがき】拝読しました。

K先生の東京高裁控訴審の結果に唖然としました。頂戴した年賀状では、かなりお疲れの様子でしたので、心配しております。証人尋問も行わず、大学側の言い分をそのまま認めるとは何ごとでしょうか。

「公平な第三者が適正かつ透明な手続により公正な法的ルール・原理に基づいて判断を示す」のが司法ではありませんか。K先生が心安らかにお過ごしになる日々が早く訪れることを願っております。

いつも『琅』とともに、先生が同封してくださるお手紙を楽しみにしております。

『琅』30号からは、松村先生が編集・発行なさるのですね。寂しい気持ちは否めませんが、一方で、存じあげている松村先生が引き継がれることに安心いたしますし、何より宗内先生がますます執筆活動に専念されることを嬉しく思います。

10日ほど前、実家の母が意識を失い救急

恵子、そして東野澄子の二人に感謝しています。ここで改めて、ご母様に謝意を表したいと思ひます。さて、ウィルス感染のほうは完治なさいましたでしょうか

これがなかなか難問で、年末からメールは一切、(万一、ウィルス付きのメールを送つたら大変ということもあり)自宅からは扱わないことにしています。一応、ウィルスは消した(ソフト上では)(ことになっているのですが、OUTLOOKがどうも不調で、送受信ともに、入るべきもの送られるべきものがきちんと記録されないのです。そこで、大学に来たときに、NIFTY MANAGERを開いて返事を書くことにしています。今後、この掲示板、または大学のメールをご利用ください。

『琅』13号の在庫がありましたら譲っていただけないでしょうか
お読みくださり、まことに有り難うございます。2冊お送りしたので、一冊はお手許にお留めください。

暖冬をめですが、外はやはり冬です。白い息をはきながら、都留大守衛門までの坂道をせわしく駆け上がるお嬢様を思い浮かべつつ、お返事書きました。きっと先の世でも、元気いっぱい過ごしていることと信じています。

お元気に

宗内 敦